

第7章 あいち森と緑づくり事業の取組事例

1 人工林整備事業

(1) 奥地



間伐前（写真上）、間伐直後（写真下）



施工後7年目（平成29年）

- 平成22年度に本数率で42%の強度間伐を実施しました。
- 間伐前は林内が真っ暗で、下層植生が全くありませんでしたが、間伐により林内が明るくなり、現在では、少しずつではありますが林内に下草が生えてきています。

【実施年度】平成22年度

【事業地】設楽町田口

【樹種・林齢】スギ・ヒノキ55年生

【立木密度】1,340本/ha⇒778本/ha



間伐前



施工後6年目（平成29年）

【実施年度】平成23年度
【事業地】豊田市久木町
【樹種・林齢】スギ・ヒノキ
16～55年生
【立木密度】1,610/ha
⇒908本/ha

- 平成23年度に本数率で44%の強度間伐を実施しました。
- 間伐前は林内が暗く下層植生が殆どありませんでしたが、間伐により林床まで光が十分届くようになり、現在は下層植生が地表を覆っています。

(2) 公道・河川沿い



間伐直後

【実施年度】平成 24 年度
 【事業地】新城市大野
 【樹種・林齢】スギ・ヒノキ
 20～60 年生
 【立木密度】1,000 本/ha
 ⇒609 本/ha



施工後 5 年目 (平成 29 年)

- 「阿寺の七滝」に通じる県道沿いのスギ・ヒノキ人工林を一体的に間伐しました。
- 交通の妨げにならないよう、また道路沿いの電線を切断しないよう、道路とは反対方向に木を倒す必要があり、ワイヤロープで牽引しながら慎重に伐採作業が行われました。
- 本数率で 39%の強度間伐を実施した結果、林内が明るくなり、事業実施後 5 年目となる現在では、下層植生が繁茂して土砂流出防止などの公益的機能が向上しつつあります。
- 道路沿いの目につく場所に PR 看板が設置されており、事業の周知にも効果を上げています。



間伐前 (写真上)、間伐直後 (写真下)



施工後 7 年目 (平成 29 年)

- 町道沿いのスギ・ヒノキ人工林において、本数率で 46%の強度間伐を実施しました。
- 冬の道の凍結防止にも効果を上げており、地域住民から喜ばれています。

【実施年度】平成 22 年度

【事業地】設楽町田口

【樹種・林齢】スギ・ヒノキ 50 年生

【立木密度】1,150 本/ha⇒615 本/ha

気象害からの復旧（雪害）

- 平成 26 年 2 月 14 日の降雪により、北設楽郡豊根村を中心にスギの着雪による幹折れの被害が多発し、電線の切断等、ライフラインにも大きな影響が生じました。
- これらの被害地において、被害立木の伐採、折れた幹の林内整理を実施しました。
- 写真の施工地（約 0.6ha）では、全損に近い被害を受け、森林として復旧の見込みがなかったため、被害木をすべて伐採搬出、処分しました。
- その後、森林所有者により植栽がなされ、順調に生育しています。

【実施年度】平成 26 年度

【事業地】豊根村上黒川

【樹種・林齢】スギ 40～50 年生



被災状況



施工直後



施工後 3 年目（平成 29 年）

気象害からの復旧（ダウンバースト）

- 平成 19 年に豊田市内で発生したダウンバースト（※）の被害地において、被害木の処理と併せて間伐を実施しました。（※ダウンバースト：積雲や積乱雲から爆発的に吹き降ろす気流、及びこれが地表に衝突して吹き出す破壊的な気流。）
- 被害木は内部まで損傷を受けていたため、伐採時に想定外の方向へ倒れて電線や光ケーブルを切断することのないよう、牽引具で伐倒方向を確実にして作業を行い、特に危険な被害木については、ラフテレーンクレーンや高所作業車を使用して伐採を行いました。
- 事業地が国道 257 号から近いことから木製看板を設置し、事業の PR にも努めました。

【実施年度】平成 22 年度

【事業地】豊田市桑原町

【樹種・林齢】スギ 20～60 年生



被災状況



施工後 7 年目（平成 29 年）

2 里山林整備事業

(1) 提案型里山林整備事業



活動状況（左から自然観察会、下草刈り、不要木の伐採）

- 市民参加による里山林の保全・活用を推進するため、市が散策路の整備やベンチの設置等の森林整備を行いました。
- 事業実施後も、活動団体（二村山自然観察会）が、毎月、自然観察会を開催するとともに、年間27回、雑木林の保全整備作業、小湿地の維持作業を行っています。
- また、市民向けに「春の自然観察会」「巣箱の設置・管理」「夏の虫さがし」「ビートルバット作り&落ち葉遊び」なども開催されています。

【実施年度】平成25・26年度

【事業地】豊明市沓掛町

【整備内容】階段・木橋・進入防止策・パーゴラ・ベンチ・案内板の設置、森林整備

事業により整備した階段、進入防止策→



活動状況（散策路の整備）



「さくらの植樹会」の様子

- 市民協働による里山整備・活用を推進するため、ボランティアでは伐採できない大径木等の伐採や機材の購入等を市が行いました。
- 活動団体（岩屋緑地に親しむ会）が、自然観察会を開催するとともに、雑木林の保全整備作業、散策路の維持作業を行っています。
- また、地元の小学校と協力して、自然観察会やオリエンテーリングのほか、最近では、「さくらの植樹会」を開催し、里山再生に取り組んでいます。

【実施年度】平成22年度

【事業地】豊橋市大岩町

【整備内容】チェーンソー・草刈り・チップパー・機材倉庫の設置、森林整備

(2) 里山林健全化整備事業



全景



林内の状況→



植樹したモミジ

- 放置された里山林において、市が不要木の除去、下刈りを行いました。
- 事業の実施を契機に、魅力ある迫地区の発展を目指して設立された団体「迫 次創会」により、事業実施後も月に1回の里山林整備が行われています。
- 整備内容としては、草刈りや除伐、散策路・交流広場の整備、進入路の舗装、階段の設置、桜やモミジの植樹、案内看板の設置など多岐に及んでいます。
- 特に放置竹林を駆除した跡地には、桜、モミジ、しだれ桃などを地元の子どもたちと一緒に植樹し、植樹の記念にプレートをかけています。

【実施年度】平成25年度

【整備内容】不要木の抜き伐り、下刈り

【事業地】豊田市迫町



ボランティアによる竹林整備

子供たちによる竹林整備

- 竹が繁茂し鬱蒼としていた里山林において、市が竹の伐採及び不要木除去を行い、明るい里山林へと整備しました。
- 事業実施後も、地域のボランティアにより毎年、竹林整備や草刈りなどが行われています。
- また、隣接して「平成こども塾丸太の家」(里山を活用した教育施設)があり、地域の子供たちの自然環境学習の場としても活用されています。
- 今後は、周辺の里山林へと整備区域を広げていき、地域資源として里山林の価値向上をめざしています。

【実施年度】平成27年度

【整備内容】竹の伐採、案内板の設置

【事業地】長久手市福井

(3) 里山林再生整備事業



整備後の様子 (右下は整備前) 整備後の様子 (右下は整備前)

- 竹の侵入や枯損木の発生が著しい里山林の再生のため、枯損木・竹の伐採等を行いました。
- 事業実施後は、地元区が竹の伐採などの活動をしています。
- 施工地は広く開放され、近隣保育園の遠足に活用されています。また、春のタケノコ収穫の期間は、地元区民なら誰でも採れるようにしているため、親竹となる竹は伐採しないように注意喚起のカードを付ける等して、竹林管理に努めています。
- 他市町から視察もあり、モデルとなっています。

【実施年度】平成27年度 【整備内容】不要木の抜き伐り、竹の伐採
 【事業地】美浜町大字豊丘 丸太柵工、竹筋工、作業歩道 等



整備前 (写真上)、整備直後 (写真下) 整備後3年目 (平成29年)

- 本事業地は、周囲を住宅地に囲まれた、お寺の裏山の里山林で、事業実施前は樹木が覆い茂り、枯損木の発生や竹の侵入が著しい状態でした。
- そのため、県が枯損木や竹などを伐採し、丸太筋工を設置することで、森林の有する公益的機能を高め、地域住民が森と緑に触れ合う場となるように整備をしました。
- 整備により林内が明るくなり、現在では下層植生の生長が確認され、公益的機能が発揮される里山林へと再生しています。

【実施年度】平成26年度 【整備内容】不要木の抜き伐り、枯損木の伐採、
 【事業地】西尾市西幡豆町 竹の伐採、丸太筋工 等

3 都市緑化推進事業

(1) 身近な緑づくり事業



【実施年度】平成23年度

【事業地】扶桑町

○ 用地買収による緑地の保全

「美しい愛知づくり景観資源600選」に選ばれた名鉄犬山線扶桑駅近くの樹林地（面積約0.89ha）を町が買い取り、緑地を保全。



現在（平成29年）

【実施年度】平成27～28年度

【事業地】北名古屋市

○ 緑地の創出（北名古屋市）

寄附を受けた土地に、市民が憩う公園緑地（約2,700m²）を市が整備

(2) 緑の街並み推進事業



現在（平成29年）

【実施年度】平成23年度

【事業地】名古屋市

○ 屋上緑化

オフィス兼マンションの屋上緑化を整備。約80m²の芝生に、菜園、花壇を整備し、常緑高木のシマトネリコを植樹。



【実施年度】平成22年度

【事業地】名古屋市

○ 駐車場緑化

COP10に併せてホテルの駐車場緑化を整備。名古屋工業大学の協力により、環境変化の調査を実施。



【実施年度】平成23年度

【事業地】小牧市

○ 壁面緑化

フッキソウ、ヤブコウジ、ツワブキなど40種の植物を植栽し、生育状況等を検証。



(平成28年現在)

【実施年度】平成24年度

【事業地】岡崎市

○ 空地緑化

マンションの敷地内(約600m²)に、樹木(中高低木約2600本)や地被類を植栽



(平成24年当時)



現在(平成29年)

【実施年度】平成24年度

【事業地】大府市

○ 空地緑化

知多半島の生態系ネットワークづくりの一環としてJR東海道線大府駅近くで企業がビオトープ(面積約1,100m²)を整備し、一般に開放。(平成24年実施)平成29年現在、右写真のようになりました。

(3) 美しい並木道再生事業



(平成28年)



(平成26年)

【実施年度】平成24年度

【事業地】豊川市

○ 並木道再生

市民に「桜トンネル」と親しまれている並木道の再整備。老木の桜を植え替え、郷土風景を次世代へ承継。

(4) 県民参加緑づくり事業



現在(平成29年)



現在(平成29年)

【実施年度】平成21年度～

【事業地】弥富市

○ 県民参加による植樹祭

市民による三ツ又池植樹祭を開催し、芝桜を植栽。多くの市民が訪れる人気のスポットに。



【実施年度】平成23年度
【事業地】一宮市

○ 県民参加による園庭芝生化

園児のけがの減少、環境や緑化への興味が増加などの多様な効果がある園庭の芝生化。

○ 8年間で13市81の保育園、幼稚園や小学校等の園庭・校庭を芝生化。



【実施年度】平成22年度
【事業地】みよし市

○ 県民参加による園庭芝生化

園児やその家族、地域の方々の参加でポット苗方式の芝生化を実施。



(平成22年当時)



現在(平成29年)

【実施年度】平成22年度
【事業地】大府市

○ 県民参加による植栽

二ツ池公園で市民が育てたドングリの苗木などを市民参加により植樹。(平成22年)平成29年現在、右写真のように育ちました。